

# 平成 30 年度 石社研研究計画

## I. 研究主題

社会的事象を公正に判断し、社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造

## II. 研究目的

### 主題設定の理由

#### 1. 研究の経過から

石社研では、平成 28 年度から 2 年間「社会的事象を公正に判断し、社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造」の研究主題のもと、地域素材を単元の中に位置づけた単元構成の工夫や自分たちの考えを再考する授業構成の実践検証を積み重ねてきた。各市町村において充実した取組がなされ、地域素材を生かした教材開発や子ども同士が主体的にかかわる授業づくりなどの成果が上がってきている。

しかし、「学んだこと発信する場の意図的な設定」などの課題も明らかになった。

#### 2. 今日的な課題から

平成 28 年度の中教審答申（以下中教審答申）では、「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。」と述べている。

また、国立教育政策研究所の「21世紀型能力」※1では、「思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向づける実践力の三層構造」を提起している。

以上の事から、「思考力・判断力・表現力を意識しつつ、主体的に学ぶ事ができる学習」「学んだことを生かして生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていく、社会参画などの実践力へとつながる学習」が課題であると言える。

変化の激しい現代社会においては確かな知識を身につけ社会的事象を考察し、公正に判断するとともに、地域・社会にかかわっていく資質や能力を養うことが大切である。この資質・能力は社会科が目指す「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」となり、公民としての資質・能力の基礎」につながる。

中教審答申を受けて平成 29 年 3 月に公示された学習指導要領（以下、新学習指導要領）では、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、「社会と共有し連携する『社会に開かれた教育課程』」が重視されている。

この理念を具現化するために、社会科においては問題解決型学習や、互いの考えを深め合う学習を充実させることが重要である。地域や社会的事象から見出せる自分達とのつながりや、身近な地域との共通点や相違点を比較しながら学ぶことで、社会認識を育てることができる。また、身近な地域から学ぶ学習過程であれば、直接地域とかかわりながら探究することができる。必然的に子どもたち自身が地域や社会的事象に直接かかわることになる。この積み重ねが社会に参画する力の育成につながる。

具体的には、クラスの仲間とかかわり合いながら問題を解決していく過程を通じて今日的な課題である「思考力・判断力・表現力」※2を身につけていくことが求められる。資料をもとに根拠を持って考え、合理的に判断するために社会的事象を多角的に見ることを意識して授業を構成することが重要である。社会的事象は多様な面をもつ。簡単に答えの出ない問いもたくさんある。そこでは、調べ、考え、話し合い、「自分（たち）なりの答え」を求める姿勢がポイントになってくるはずである。社会的事象がもつ多面性、多様性をとらえ、自分だ

※1 21世紀型能力

未来を創る(実践力)  
・自律的活動  
・関係形成  
・持続可能な社会

深く考える(思考力)  
・問題解決・発見  
・論理的・批判的・創造的思考  
・メタ認知・学び方の学び

道具や身体を使う(基礎力)  
・言語  
・数量  
・情報

教育課程企画特別部会  
論点整理資料P173

※2 社会科で育てる「思考力・判断力・表現力」  
社会的事象の相互の関連・特色を、比較・関連付けながら再構成する。社会的事象の価値(大切さ)や課題、よりよい社会へのあり方、自分達の社会へのかかわり方を多面的、総合的にとらえて公正に判断する。調べたことや考えたことを言語、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現する  
澤井陽介『小学校社会授業を変える5つのフォーカス』

けでなくまわりの考えを知り、さらに考えることで、一人よがりではない公正な判断ができるだろう。また、思考・判断・表現したことを地域に発信したりする筋道も見えてくると、学びを通して社会と主体的に関わることになる。

前述したこれまでの石社研の取組、そして新学習指導要領や論点整理、中教審答申などで提示された今日的な課題。それらを踏まえ、今年度からの2年間についても、研究主題を「社会的事象を公正に判断し、社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造」と設定し、研究・実践を行っていく。

### Ⅲ. 研究仮説

- ◆研究仮説1：多角的に社会的事象をとらえられる地域素材の教材化など、単元構成を工夫することで公正に判断する子どもを育成することができる。
- ◆研究仮説2：調べたことを再考し、発信することで、社会と主体的にかかわりをもつ子どもを育成することができる。
- ◆研究仮説3：子ども一人ひとりの考えの伸びを的確に見取り、形成的評価を継続的に行うことで、社会的事象を自ら調べ考える子どもを育成することができる。

### Ⅳ. 研究内容

#### 研究内容1

#### 社会的事象を多角的にとらえ、公正に判断できる単元構成

- ①地域素材の教材化と、単元中の位置づけの工夫
  - ・地域素材の教材化
  - ・地域から社会をみる。社会から地域をみる
- ②社会的事象を多角的にとらえられる単元構成の工夫
  - ・社会科で身につけさせたい資質・能力
  - ・目標を明確にした単元構成
  - ・教科等間の相互の関連 カリキュラム・マネジメント

#### 研究内容2

#### 自分（たち）が考えたことを再考し、発信する授業構成

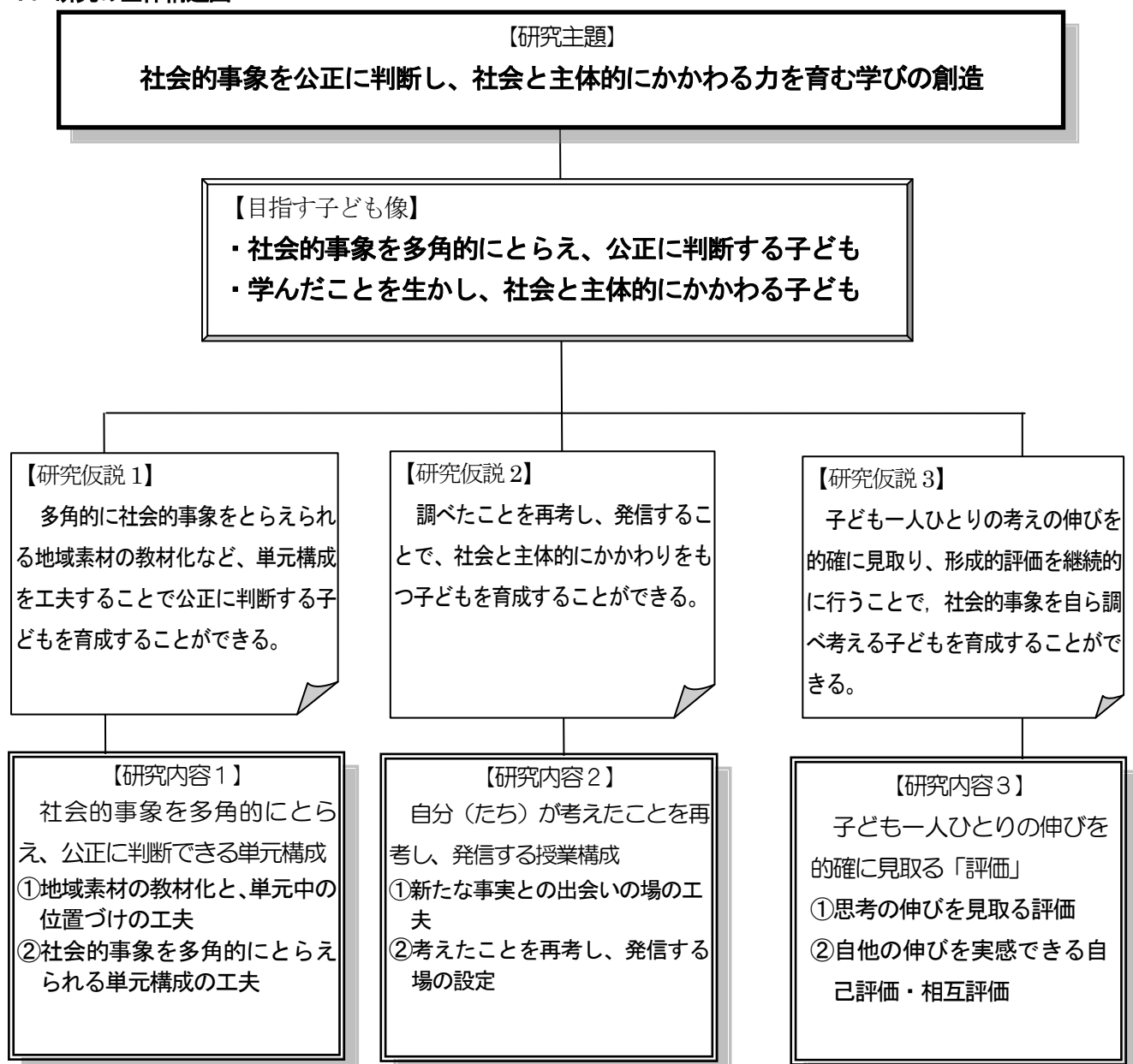
- ①新たな事実との出会いの場の工夫
  - ・資料提示や発問
- ②考えたことを再考し、発信する場の設定
  - ・社会科における主体的・対話的で深い学び（言語活動の充実）
  - ・「社会的事象の見方・考え方」と、「発問」
  - ・再考した事を発信していく力の育成

#### 研究内容3

#### 子ども一人ひとりの伸びを的確に見取る「評価」

- ①思考の伸びを見取る評価
  - ・ノートやワークシートの活用など
- ②自他の伸びを実感できる自己評価・相互評価
  - ・自己評価カードの活用など

## V. 研究の全体構造図



今年度は、2年継続研究の1年目。昨年度の研究の成果と課題を踏まえて、研究を推進したいと考えている。研究の具体化については、石社研の研究内容を受けて、各市町村の推進委員を中心に具体化される。各市町村の独自性を十分に生かした研究が望まれる。

## VI. 研究方法

### 1. 実践検証の方法

各市町村、各会員の主体的な研究に重点を置き、自ら検証すべき単元を検討し実践を深めるものとする。各市町村の実践報告という形で提言の市町村を役員研修会で確定し、合同研修会において討議の柱を設定し、石教研二次研究協議会（北広島市）において交流するものとする。

### 2. 中心グループの設定

共同研究の中核として、中心グループは管内研究を強力に推進し、組織的に取り組む。平成30年度は、2年継続研究の1年目にあたる。中心グループは、北広島市（広社研）である。

### 3. 部会情報「石社研情報」の発行（年間3回）

部会連絡、各種研究会報告、授業実践の交流、各市町村の声などを定期的に発行し、部会のパイプ役として情報活動の充実に努める。今年度は、「石社研情報」はNo.187～189の発行予定である。

### 4. 講演会・フィールドワーク

講演会・フィールドワークについては、どちらか1つを実施する。会員のニーズに合わせて、どちらを実施するかを決定する。具体的な内容については、後日の役員研修会で提案する。

### 5. 副読本協議会

各市町村の副読本編集委員会の事務局長を構成員とし、各市町村相互の情報交換、連絡、協力を得ながら運営していく。委員長は教育課程代表が兼任する。

### 6. 教育課程研究委員会

石教研二次研究協議会の実践交流を踏まえ、教育課程編成のための資料整備にあたる。

## Ⅶ. 研究体制

各市町村とも研究組織が整備され、研究実践への取組も充実発展してきている。市町村の推進委員の熱意ある努力とそれを支える会員各位の協力によるものといえる。従って部会では、役員研修会を部会研究の中核としておさえ、役員、推進委員、教育課程研究委員間の連携を密にし、部会研究を強力に推し進めていきたい。

## Ⅷ. 年間計画

4月	石教研一次研究協議会・役員決定	10月	石教研二次研究協議会 中心グループ訪問
5月	役員研修会	11月	役員研修会
6月	副読本協議会 役員研修会	12月	役員研修会 情報発行
7月	(講演会) 情報発行	1月	役員研修会
8月	役員研修会 石社研学習会	2月	石社研研究改善協議会 情報発行
9月	合同研修会	3月	

### ※参考文献

- 荒井真一 前田賢次編『学力と教育課程の創造』同時代社 2013年  
澤井陽介『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』図書文化 2013年  
澤井陽介『沢井陽介の社会科の授業デザイン』東洋館出版 2015年  
奈須正裕 江間史明編『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり』図書文化 2015年  
北俊夫 向山行雄『新・社会科授業研究の進め方ハンドブック』明治図書 2014年  
片山宗二『「社会研究科」による社会授業の革新』風間書房 2011年  
寺本潔編著『言語力が育つ社会科授業』教育出版 2009年  
寺本潔 吉田和義編著『伝え合う力が育つ社会科授業』教育出版 2015年  
橋本美保 田中智志監修『教科教育学シリーズ2社会科教育』一藝社 2015年  
波 巖『よりよい学習指導案からよりよい授業実践へ』東洋館出版 2010年  
石橋昌雄『社会科授業実践50のポイント』教育出版 2013年  
村田辰明『社会科授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版 2013年  
『教育科学 社会科教育No.680』明治図書 2015年  
唐木清志編著『「公民的資質」とは何か - 社会科の過去・現在・未来を探る -』東洋館出版 2016年  
澤井陽介 加藤寿朗『「見方・考え方 社会科編」』東洋館出版 2017年  
須本良夫 田中伸編著『社会科教育におけるカリキュラム・マネジメント』梓出版社 2017年  
前田賢次『地域をともにつくる教育実践の現状と課題』

日本社会科教育学会「社会科教育研究」No.131 2017年  
(文責 高橋 公平)